

# 財務

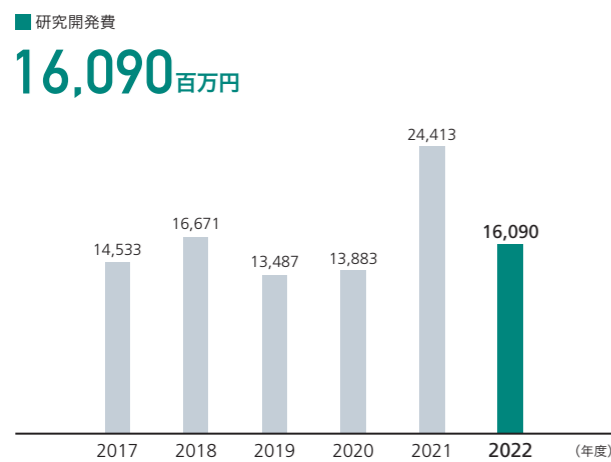
## 売上収益/コア営業利益



**売上収益:** 日本事業は、薬価改定の影響があったものの、新製品の売上伸長や限定出荷解除により前期並に、米国事業は、ブランド薬等の順調な進捗に円安効果も加わり、前期を上回りました。この結果、初めて2,000億円超を達成しました。

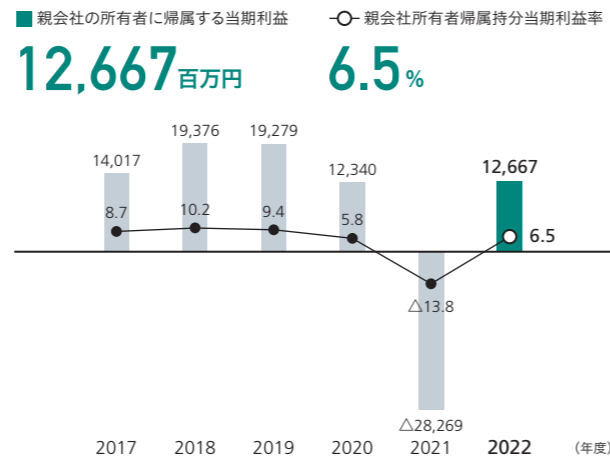
**コア営業利益:** 日本事業での生産能力増強のための先行コストの影響等で、前期を下回りました。

## 研究開発費



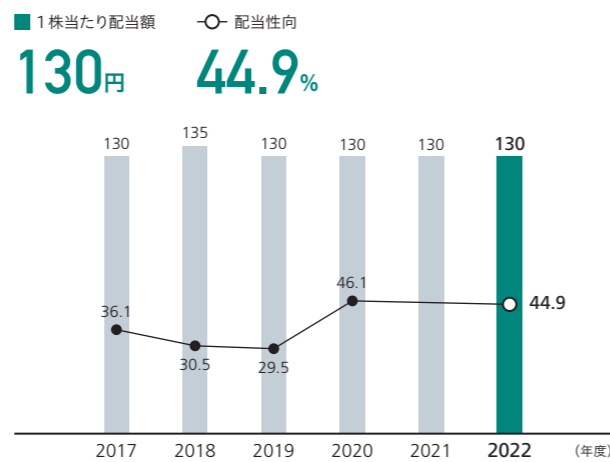
将来の成長に向け、他社との差別化となる新製品を一番手上市するために、積極的に研究開発投資を行いました。米国事業において前年度発生した減損損失の影響が無くなったことや経費削減効果により、前期比34.1%減の16,090百万円となりました。

## 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社所有者帰属持分当期利益率



日本事業、米国事業とも厳しい環境のもと、原材料等の経費削減に積極的に取り組み、利益確保に努めました。日本事業での先行コストの影響はあったものの、米国事業で前年度発生した減損損失の影響が無くなったことで、黒字転換しました。

## 1株当たり配当額/配当性向

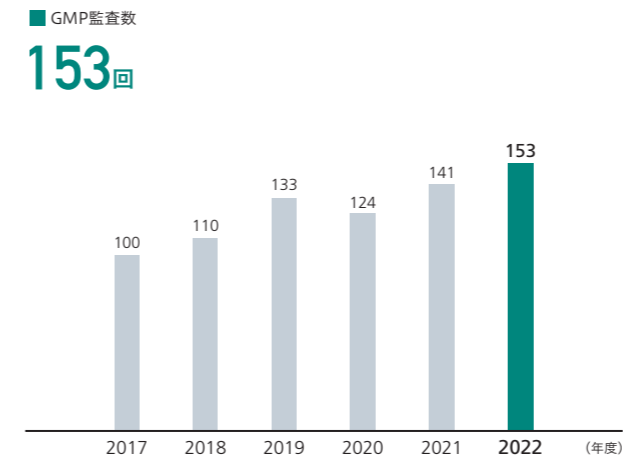


成長投資とのバランスに配慮するとともに、毎期の連結業績、配当性向、その他の株主還元策等を総合的に勘案しながら、配当性向30%を目途に安定的かつ継続的な配当を行っています。2022年度は、1株当たり年間130円を株主の皆さまに還元しました。

# 非財務

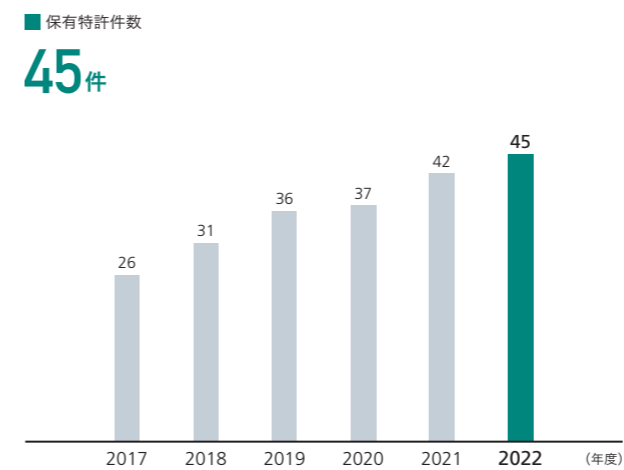
(集計範囲: 沢井製薬)

## GMP監査数



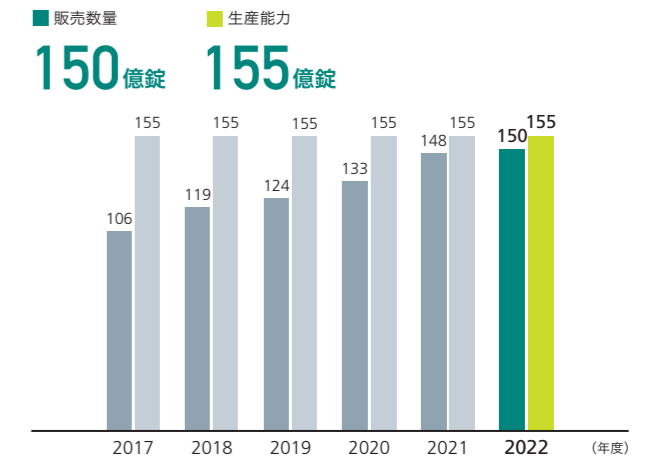
沢井製薬では監査専門チームを結成し、年間100回以上のGMP監査を実施しています。前回の監査結果に基づき次回の実施年を設定するため、年度毎の監査数が一定の範囲で変動します。製造販売品目数の増加に伴い、新たな製造所の監査数も年々増えていますが、リモート監査や第三者による監査(委託)によって補っています。

## 保有特許件数



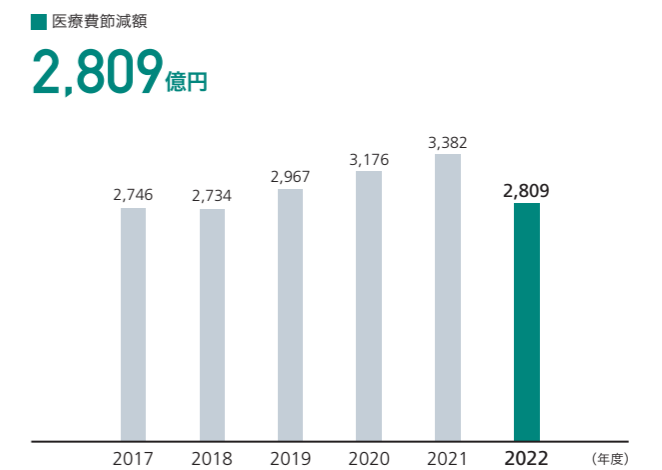
有効成分の苦みを軽減する特許、水無しで服用できるOD錠の特許等、様々な特許を保有しています。最近、続々と新規技術の開発がなされており、サワイ独自の製剤技術(SAWAI HARMOTECH®)関連を含め、様々な特許出願・登録が増えています。当社グループは、特許を含む無形資産の価値の最大化を目指しています。

## 販売数量/生産能力



当社グループが高品質のジェネリック医薬品を比較的多く供給できる背景には、業界トップクラスの生産能力があります。第二九州工場の建設等により、生産能力のさらなる拡充を図るとともに、ジェネリック医薬品供給のインフラ企業としての役割を果たしていきます。

## 医療費節減額



当社グループの最大の社会貢献は、ジェネリック医薬品の提供による医療費負担の軽減を通じた医療保険制度の持続性向上です。特許の切れた長期収載品とジェネリック医薬品の薬価差が縮小しつつありますが、依然として売上収益を大きく上回る、約2,800億円の医療費節減効果に貢献しています。